

通航一覽

八

內閣文庫		
三五三八	二六	七八
號	冊	函
類	架	架
		和書

139
閣

內閣文庫	
番號	和 35381
冊數	26 (8)
函號	178 444

甲

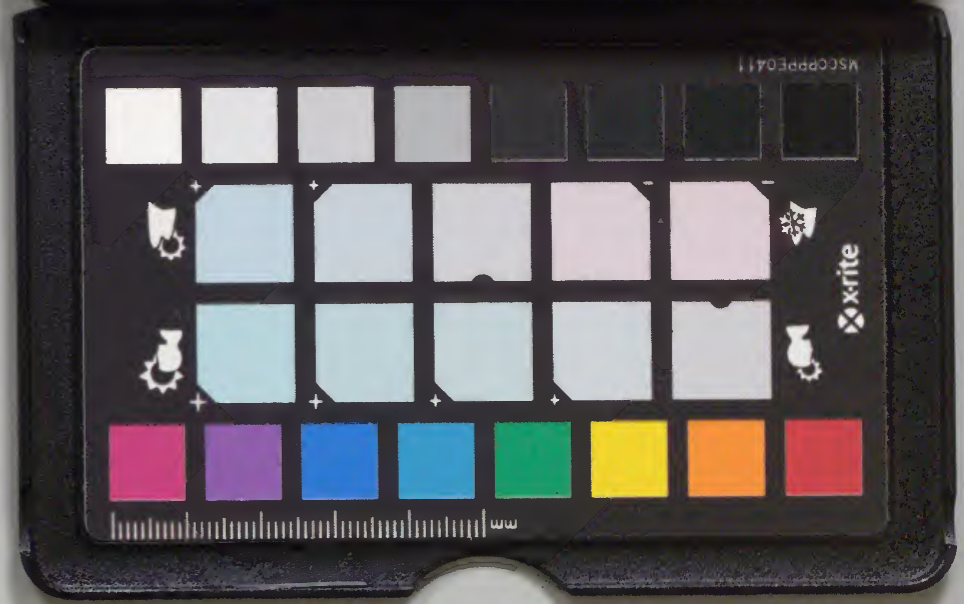
共廿四



Kodak Gray Scale
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



周139

通記

...

...

...

通航一覽卷之八

琉球國部八

目錄

一 來頁 天和二年



通航一覽卷之八

琉球國部八

素貞 天和二年



天和二年戊午四月琉球人系府了
よて乃造およし行路傳法等の町
觸あま同六日江戸小糸着以同
九日上使よひて杞年津申將光久
小糸二子儀とたぬる同十日水日彼

使者法禮より出仕の軍衣服
制限等の觸あり

天和二壬戌年四月

覽

一を日琉球人法當地に系着仕ゆる所中不
作法無く極よ急なの中付の見物仕ゆ
そのとも礼より外へ不この程出仕琉球人
通仕刻指き——急な仕留め事

一琉球人系着中ゆより付通物と町ハるを
作り要あり砂と入の中ゆとろとるを
よして作中留めゆ論隣町と中合並よく
まゝ作の中ゆと進く有留め琉球人當
等々日ハ水亦手桶面々取く希なる
並掃除に油形琉球人通仕が——希く水
亦この中ゆ事

一琉球人通仕刻名致知月行事並り

不化法之極の中付ゆ本戸脇之森
本戸下附居喧嘩口論之極又堅の中付
此事

附琉球人宅 撤之日又上野増上
糸訪之日長方元教足之長右の島
希事

戊辰月

右に月差入涉觸

同月六日

是

一今日琉球人當差中付見物致しゆその
とも希方お觸り通流行俊能見物の仕ゆ
琉球人之跡先く付き中付見物此を町
中不残子くお觸り中付少も油形有る
爰以上

同月六日

町年寄
三人

以上正室年録
大成令補遺

天和二年四月六日琉球中山王尚貞より
清代整より付て使者名護王子當地着松平
大隅より下屋敷に入

清日記
温知柳雲秘鑑

天和二年四月九日松平大隅より大目付内
出羽より上使として来二子儀より琉球
人來聘より取也

琉球來聘日記抄
柳營日次記
如官日簿抄

天和二年四月十日琉球人明日清禮より
何尔以下惣大名へお半時長袴兜共
お解

清日記
琉球來聘日記抄

四月十一日中山王尚貞の使者名
護王子登城已后刻
常憲院殿大廣間より出清名護孫

謁して津代督と賀してはるる川
 里方物と獻は松平為津薩摩守
 綱貞ハ使者よりしちて登壇し
綱貞ハ祖父光久
の名代るる津藩代大名諸役人出仕を
希例法統方乃筋整固二組
ありしころいし年やむ同十二日使者西城子
 登壇先中奏者書大目付法目付等
 出仕せり

天和二年四月十日

一 琉球國王尚貞の使者名護王子今日出
 仕松平大目付より上登壇せり
 今胡糸り此は若津の八代洲河峯親
 口通松平日向守屋お前より大腰掛
 後松平因幡守屋お前通按はるるは貞事
松平因幡守屋お前通
よりり松平日向守屋お前今の奥川出陣守屋お
松平因幡守屋お前今の酒井雅楽政中屋お前是なり大手
 清乃乃お屋お一法統目付止返り西へ警
 固守り使者轎より系従者拾九人強り大

手橋より先りて下る王子の系物橋より前りて
下系旗持并持等ハ大腰掛よりとらる

騎馬拾九人

恩納親方
知念親雲上
平識親雲上
濱比賀親雲上
糸數親雲上

照屋親雲上
屋富祖親雲上
當真親雲上
上江洲親雲上
具志堅親雲上
宮平親雲上
稻峯親雲上
小橋川親雲上

ハマカハサトノシ
濱川里之子

ノサト
野里里主

シキナ
識名里之子

イシャトウママル
伊舎堂真満刈

サシキヲモヒトク
佐鋪思徳

サベマツカチ
佐邊松兼

王子沛玄園階之上了至時大目針秀坂
去波馬内辰出羽馬出近柴内辰上之間下

辰著産徒者拾九人次々了了列居下官ハ
沛玄園希了了産

一 和年薩摩馬宅城

一 已后刻大廣間出沛 沛長袴

沛刀

有田信勢了

沛上辰 厚夏之冬重以大放之縁色
沛袴沛刀掛沛香簪有

沛着座 沛後

牧野備後了

按了了了沛側沛
用人成貞了了

板倉市正

金田遠江守

有田信勢守

涉小納戸

涉縁頼涉小性胤

按去りより市正遠江守の涉側
礼信勢守の詳多し

下原より堀田能成守并信掃部政保科肥後

守自注
長袴涉目通々南々板塚より大久保加賀

守阿部忠清守戸田山城守

自注長袴○按
去りより能成守

正後ハ大元加賀守右朝忠清守
正武山城守右昌守る在申あり

一板塚次より堀田下総守

按去りより能成守
正後より城守あり

奏者番

諸元大目付番既相既所存切涉目付之外

涉役人極候

之よりより涉儀代大名外様々大名列座

甲冑以上中大名涉儀代大名無官々面々

まて宅城

一 王子殿上之間より奉被り出羽鳥巢内

中之間東より安居際より西より白着座

但落座より令同列同席

一 献上物出御以希南板縁より並座

御太刀 一腰

御馬 一疋
自注琉球馬麻毛

祇傍部文九席庭上より引出

大中央卓 二面

大硯屏 一對

大籠版 一對

羅紗 二拾間

白縮緬 五拾端

島芭蕉布 同

晒芭蕉布 同

右平布 百匹

久未綿 百匹

壽帚香

三拾箱

香餅

三拾箱

竹心香

百把

泡盛酒

拾壺

右沛右刀目録奏者番酒并大和弓持出

中辰下より四五ヶ月迄中山主よりと披露

王子出席下辰下より四五ヶ月まで九拜

て退去沛右刀目録同人引

官香

拾把

島芭蕉布

二拾端

壽帚香

拾箱

太平布

二拾匹

泡盛酒

二壺

右示く出比示並重王子重る出席自分

く法禮於板縁之陣奏者番酒并鞆負佐

披露早る局上く間一退をく時先中お

越今新有くゝる返左

堀重法門

天野孫右衛門

中法門

布施孫之丞

法基石口法門

箕新之丞

按まゝりしは海軍右衛門新之丞ハ
法基孫砲隊孫之丞ハ同弓取なり

琉人名護王子ノ外之人及御目見等々

御日記 琉球東聘日記抄 琉球人來朝記

憲廟宴祿 甘露叢

天和二年四月十一日琉球國中山王尚貞ノ使

名護王子登城屋橋ノ下ノ徒者拾九人ヲ

ノ下ノ徒者恩納親方知念親雲上平識親雲上

濱比賀親雲上孫數親雲上照至親雲上臣

富祖親雲上當麻親雲上上江剛親雲上具

志堅親雲上之丞年親雲上稻津親雲上小橋

川親雲上濱川里ノ子野里里直識名里ノ

子位舎堂真満新佐補思徳依色松兼等々

旗等々ハ大手ノ腰掛ノ徒者等々

大手の先より下り名護王子の御物
橋の番より至橋より下の法立園の階の上
におぼとく大目付表坂を渡り重沼内
出羽より方出迎乃守て殿上より同より至は王
子下辰より若殿より從者ハ次々同より列居
松平薩摩より綱貴と兜城よりて殿上
同より若殿より中山王尚貞の献上物太刀
一腰より正中央の大卓子大硯屏大箆

版各々對羅紗二十卷白綿紗烏芭蕉布曝
芭蕉布各五十端ち平布久米綿各百疋寿
帯香帯餅各二十お辯心香百把泡盛拾壺
大廣間の南の板縁より並座くるハ祝部
文九郎庭上り牽立より名護王子の献
上物官香拾把烏芭蕉布二拾端寿帯香
拾箱ち平布二拾疋泡盛二壺こども同不
了並く尚貞の書信ハ執政より置たり

清藤より出さるに巳時の後清長袴して大廣
間より出清上辰より清澄なるも牧野備後より成
貞板倉市正重大金田遠江も小性元小納戸
元より後よりあり堀田筑前も正信井住掃部
元直貞保科肥後も正容下辰より侍座を南の
板塚より大久保加賀も忠朝阿部を後も正
武戸田山城も忠昌板塚の次より堀田下辰も
正伸清元奏者昔元大目付昔元元相元元

町奉行目付元元諸役人との間より清弟外辰の
諸大名列居を既よりして彦坂を後も内辰
出羽も名護王子も乃乎て中より間よりなりお
居降より西面より座を〜む薩摩もとも同所
より酒井大和も忠榮尚貞の献上も
左刀と目録と〜と元て中辰より下より元
目より座より中山王よりと披露するも〜と名
護王子進出て下辰の下より元目より

て九條——て退く大和守忠榮はさかひも
古刀目録と引けて酒井敏貞佐忠進進出
名護五子と披露さるるとき名護五子
進みて三條——て退く礼平はさかひも出
羽守名護五子と守守殿上の間より充
居の退出を待て清玄園の階上まで及す
出て退出を

憲廟宮祿

天和二年四月十一日

一 琉球人清禮有々本加當清番組上下着用

琉球人進物元次清後方にて勤く但右を

物元次子壽 按そのりく清後
當の概あり 國野平を系組序

類罷出の進物多清後不足了付助清候

番本清番清後お加元次中以前に琉球人

宅城に長乃番二組入の清後其友ハ在り

の致有對する處 按そのりく清後
其友田正英 元作清

涉從方為奉記

中山王より書簡

欽差使价奉呈書簡恭聞

貴國

大君昭代御連續四海無事萬祥共臻如

吾小邦又隔千里祢万歳方今小使名

護王子捧不腆方物從我薩摩中將光

久寅奉述賀儀伏希尊大老指揮之達

台聽誠惶謹言

中山王

延寶九年辛酉五月十六日 尚貞

進上

稻葉美濃守殿

琉球人素胡記 續武家評林 ○按るるより美濃守正則ハ延宝八年
正月大老酒井雅步政右法同格とるり大老元年十一月退職ハ
使者彼國と云々ハハ延宝九年十月九日也

欽差使价呈上書簡恭聞

貴國

大君昭代御連續四海無事萬祥共臻如
昔小邦亦隔千里稱萬歲方今小使名
護王子捧不腆方物從我薩摩中將光
久謹奉述賀儀伏冀諸大老採納之達
台聽誠惶不宣

延寶九年 辛酉 五月十六日

中山王

尚貞

進上

大久保加賀守殿

土井能登守殿

堀田備中守殿

板倉内膳正殿

按よりりく能登守利房ハ天和元年二月内膳正重通も同
年十二月退職せり其の事ソヨソこの由より申す
よして書るるは其の
名と加へり

中山王より西之丸 白書簡

欽差使价呈上短章恭聞

貴國

大君昭代御連續累葉熙陸万祥駢臻如

吾裔夷之屬國亦豈敢後華封之祝方

今小使名護王子獻不腆方物依我薩

摩中將光久謹備來聘之儀伏冀諸大

老扶納達

青宮聽聰誠惶不宣

中山王

尚貞判

延寶九年辛酉五月十六日

進上

大久保加賀守殿

土井能登守殿

堀田備中守殿

板倉内膳正殿

琉球人素胡記
温知柳管秘鑑

天和二年四月十二日西丸口琉球人出仕了付書

後中山城を奏者番三人大目付二人法目付三人お成

法日記

四月十四日琉球使宅城を已刻法白書院より出沛其の喜樂と徳を〜
同十六日法眼賜物あり

天和二年四月十四日

- 一 松平薩摩守琉球人百連宅城喜樂奏々
- 一 已刻白書院出沛

右平樂

瑣呐

鼓小鉦手拍子

鉦着板

三金

三板

萬葉樂

同

照屋親雲上

濱川里之子

識名里之子

野里里直

松葉

同人

鼓着板

羅

之全

三板

籥之樂

同

鼓小鼗

鼗着板

濱川

識名

野里

松葉

同人

濱川

識名

松葉

之全

三板

同

半笙

鼓小鼗

鼗着板

之全

三板

野里

松葉

真滿川

濱川

識名

野里

松葉
思佳

万葉樂

同

鼓着板

鉦

之金

之板

唐歌

立笙

同人

濱川

識名

野里

松兼
思德

濱川
野里
真滿川

瑟

同

立笙

二線

之線

同

口線

同

識名
思德
松兼

濱川

真滿川

識名

松兼

野里

思德

三線歌

三線

識名 濱川
野里

同

松葉 真満川
思徳

右平与音楽死作付ハ琉球人ハ時服死下
之名松平之薩摩之老中中流之

琉球素戔日記抄
琉球人素朝記

天和二年四月十日松平薩摩之綱貞
琉球人ト云キ以テ電城國技ト奏キ白書

院ノ出陣云々縁通ノ堀田對多也正英稻葉
石見也正休多ノ近臣中臣ノ右ノ方ノ備
後也城貞法度ノ近也右ノ方ノ筑前也
正後下臣ノ國際多リ中臣ノ縁通ノ加賀
也右朝下臣ノ縁通ノ山城也右昌ノあも人
國ト交ルリ板縁ノ堀田下領也正仲奏者
大目付列候一テ琉球ノ楽人ト其節ノ並
居ル一モ名護ノ王子ハ其縁通ノ法度

よ白て二座を薩摩多綱貴ハ名護の上こ方
よ座して内よ白し詠元芙蓉の間の役人
元ハ勝手の方よあり乐の次第一番よ左
平乐讃呐ハ照屋鼓小鉦手拍子ハ濱川鉦着板
ハ識名之全ハ野里之板ハ杞菊二番よ万葉
乐讃呐ハ照屋鼓着板ハ濱川權ハ識名之全
ハ野里之板ハ杞菊之番よ雜在乐役人左平乐
よ同しに番も雜在乐半笙ハ真満刈鼓小鉦

ハ濱川鉦着板ハ識名之全ハ野里思徳之板ハ
杞菊不番よ万葉乐半笙ハ真満刈鼓着板
ハ濱川鉦ハ識名之全ハ野里之板ハ杞菊思徳
次よ唐歌二園第一園ハ野里真満刈思徳杞
菊唱以て立笙濱川瑟識名第二園ハ立笙
濱川二線真満刈之線識名杞菊三線野里
思徳次よ琉球歌濱川野里真満刈唱以て
之線識名なり

憲高家録

天和二年四月十三日琉球人宅城臺外作付
本加清供番助清供番上下着用出勤

清供方手記

天和二年四月十六日

- 一 王子清眼之下徒者行列ハ十日ニシト
- 一 松平薩摩守宅城
- 一 今日清表依立出清大廣間ニシト間ノ老中

若年安中着座薩摩守の南ニ方着座主
 清王子中ニ間お居際西ニ向テ着座對老
 中一禮各令釈有るお居ニ内出座中山
 王の上ニ乞々執事賜物奉筑前守傳達

白銀百枚

中山王

綿百把

右元前より大廣間下辰並ニ並ニ清禰障
 子明座王子ノ具々差出ありて大廣間

北より方松の間は名護王子退所襖障子閉

白銀二百枚

裕十

名護王子

右持出中より間を居一尋隔中英より東より

方より西におく王子中より間中英着座于時

白銀時服衣下白御衣を執山城より傳へ拜

戴退座

白銀三百枚

従者より族

右中より東より方を居際より座より王子出

座白銀従者惣中より下より執山城より傳へ一

禮有る退き薩摩より出座法礼有る

一 殿上より間よりおいて中山王より退物目録

筑前より老中より退所表坂を渡り坂中

右より佐王子より渡

一 去十四日死体射樂人より其時服衣下

自薩摩より中河へ付る今日家来に返り
琉球来朝日記抄

天和二年四月十六日

一 浄書院浄小姓組より出入拾人半袴大袴番
之組より出入七拾人 同上 外極大石出仕等々

浄城内致書浄

浄弓取

浄玄園前

長谷川久之亭

袈裟取

同明口浄門

箕目屋右衛門

中浄門

同

堀内惣之丞

一 琉人西丸に出仕薩摩より同乃加賀より其返
り 堀本右衛門佐其外奏者番

銀三百枚

時服十

若君様より送下り

浄日記

天和二年四月十六日 松平薩摩より琉球園

中山王尚貞の使名護王子と率て宅城大
廣間中へ向て堀田筑前守正後大久保
加賀守右朝所部豊後守正武戸田山城守右
昌牧野備後守成貞堀田對守正英稻葉
石見守正休列彦筑前守正後尚貞に賜物白
銀五百枚綿五百把並上之衣と名護王子に傳ふ
山城守名護王子に賜物白銀二百枚袴十從
者拾九人丁白銀二百枚とたむふ事を傳ふ

執政の返答を八景坂を渡り重沼坂本右衛門
佐重治名護王子に授く外に上之衣を奏せし
もの七人並濱比賀玄平稻峰八役人並し八
おのく時服之を賜ひ名護王子西九日も糸
上を

若君より白銀二百枚袴十中山王尚貞へ

賜ふ

寛文五年

天和二年四月十六日琉球人清服等下銀五百
枚錦五百把中山王下銀二百枚時服十名護王
子下此外惠琉球人下銀三百枚時服之樂童子
一右之長清儀助清儀より拾人本清儀より
五人清儀番より五人都合二十人にてお勤

清儀方番年記

大老堀田筑前守返答

使者名護王子遙來去歲仲夏芳翰落

手如示我

尊大君繼前緒國家間暇太平重光兆民
安所依之遠表慶賀之祝儀千里厚情
可以嘉焉即披露之使者捧土瓦數品
登城拜禮畢

台顏快然可慰緬懷也恩賚如目錄可領
受之猶使者可演說也不宣

天和二年 壬戌四月十六日

從四位下左近衛少將兼筑前守

紀正俊

回答中山王

館前

琉球人來朝記
續武家評林

御本丸返簡

使者名護王子遠來去歲仲夏芳翰入

手如諭我

尊大君繼前列國家閑暇太平重光兆民

安所依之遙表慶賀之祝儀千里芳志

可以嘉焉即披露之使者捧方物數品

登城拜禮事畢

台顏快然勿勞遠想也恩賚如目錄可領

納之猶使者可演述也恐恐不備

從四位下侍從兼山城守

天和二年壬戌四月十六日

藤原忠昌

從四位下侍從兼豐後守

阿部正武

從四位下侍從兼加賀守

藤原忠朝

回復中山王

館前

西々九返簡

使者名護王子遙來去歲仲夏芳札披

誦之我

幼大君逐日御成長彌襲安泰之祥以堅
永久之基我國之慶可推察焉使者捧
方物數品登城述賀儀即言上之千
里之厚情可感謝也恩賜如目錄可受
納之恐恐不備

從四位下侍從兼山城守

天和二年壬戌四月十六日

藤原忠昌

從四位下侍從兼豐後守

阿部正武

從四位下侍從兼加賀守

藤原忠朝

回復中山王

館前

以上溫知柳雲秘鑑

同之癸亥年八月十一日在壬午年系府の

使者帰至よりりて中山王尚貞

より謝使獻物と薩摩守よりて返を

よして薩摩守綱貞より使者とよて

こまきと在か

院ハ薩摩守来
頁ハ條あり



